



生野中学校区 学校設置協議会準備会 ニュース

平成30年6月14日発行 第6号

子どもたちのためにできること



みんなで話し合っています

生野区では、教育環境の充実、子育て環境の充実、災害に強いまちづくりを通じて、まちの活性化をめざす「生野区西部地域学校再編整備計画」を推進しており、議論のたたき台となる「生野中学校区学校整備計画（素案）」をもとに保護者・地域住民のみなさんと具体的な意見交換を進めています。

生野中学校区 学校設置協議会準備会（以下、「準備会」といいます）（第6回、平成30年5月16日（水））が開催されましたので、議論内容をご報告いたします。

第6回準備会で意見交換されたテーマ

- ✎ 跡地活用
- ✎ 生野中学校区でめざす小中一貫校について



跡地活用

事務局からの説明内容



- ✓ 防災拠点としての重要性から、生野区では小学校跡地を残すという方針であり、避難所機能は残ることとなります。
- ✓ 跡地活用の検討においては、災害時は避難所として利用することは必須条件とします。それを前提に、夏祭りや防災訓練といった従来の活用を継続できる形で、地域ニーズを踏まえたまちの活性化に繋がる活用方法の検討を進めます。
- ✓ 跡地活用の検討スケジュールは、各地域における課題や特色、ニーズについてご意見をいただきながら抽出し、平成30年度中に中学校区単位での全体構想を策定します。また、平成31年度以降に各小学校区の具体的な内容の計画を作成していく予定です。現時点では、具体的な利用案の内容を提示するというより、課題を抽出し、ご意見やニーズを受けながら検討を進めている段階です。



- ★ 現在、廃校となっている学校跡地の維持コストはどのくらいなのか？廃校後の維持管理をずっと続けてくれるのか、行政として維持管理が困難となったときにどうなるのか、地域の心配はこの点にある。市長や区長が変わっても、持続的な維持管理ができるよう、数字の裏付けのあるプランを固めてほしい。

単に学校跡地としておいておくだけでも、点検等にかかる費用も含め、1校あたり年間約500万円のコストが見込まれます。

将来的には、賃料等の収益を生み出すことにより、学校跡地の維持に行政がランニングコストを投じることなく、地域が利用できる形をめざしていることから、現段階では維持管理を何年担保するというものはありません。

行政

- ★ 現在の再編案に大きな反対があり、西生野小学校地以外の場所で新学校が設置されることになった場合の検討はどうするのか。

平成30年度はあくまで中学校区単位での検討を行い、学校地が固まった平成31年度以降に各小学校跡地の具体的な内容を検討する予定としています。

行政

- ★ 地域は必ず学校跡地は維持できるものと受け止めている。維持管理を行うことが難しいとなった場合にはどうなるのか。

活用せずに跡地のままにしているだけでも年間500万円の費用が必要です。維持管理ができるような計画を立てていくところまでは行政の責任で管理を行っていきます。

行政

- ★ 各学校で現在行われている地域クラブ活動はどうなるのか。1つにまとまることになるのか。また、跡地を活用してこれまでどおりの活動ができるのか、教えてほしい。

地域クラブ活動や生涯学習ルーム活動など現在学校を利用している活動についてのご意見もニーズとしてお受けしたいと考えています。仮に民間に貸す場合でも、ニーズを踏まえて条件を付ける等の方法で、現在の地域の活動が継続できるような形にしたいと考えています。

行政

- ★ 各小学校跡地で同じ内容の活用をするのではなく、学校ごとに異なる活用方法をとることは可能か。例えば、〇〇地域は児童が放課後を過ごす場所、△△地域は病児保育してもらえる場所といった形にすることで、中学校区全体で子育てに手厚いまちと思ってもらえる。周辺区から子育て世帯が入ってきてもらえるような子育てに強いまちのモデル的なものになれるようにしてほしい。魅力的な活用策は取り合いになるので、早期に決めた方がいい。

現時点では、中学校区単位での検討を行っている段階ですが、小学校区ごとに検討する段階になった際には、区全体の状況も勘案して各エリアの特色を踏まえた計画の作成を進めます。

行政

- ★ 舍利寺小学校跡地の活用について、大池中学校区との兼ね合いはどうなるのか。

エリアで区切るのがよいか、包括的な計画にするのがよいか、ご意見を聞かせていただきながら検討を進めていきたいと考えています。

行政

生野中学校でめざす小中一貫校について

事務局からの説明内容



- ✓ 国の資料では、小規模校では、ひとりひとりに目が届きやすいというメリットがある反面、集団のなかで様々な考えに触れることや、学習活動・学校行事に制約が生じるというデメリットがあるとされています。大阪市としては、団塊世代の大量退職により、採用10年未満の教員が約半数を占めるという現状で、経験の浅い教員が小規模校に配置されると、教員同士でのスキルの伝達や共有が難しいというデメリットもあります。そうした状況を踏まえ、**教育委員会事務局の方針としては、適正規模を確保しながら、学校運営の工夫により、小規模校のメリットであるきめ細やかさを失わないよう対応をすることとしています。**
- ✓ 小中一貫教育の検討にあたっては、従来、「中一ギャップ」といわれる問題があるとされてきましたが、国立教育政策研究所の調査によれば、問題行動は中学校から急増するわけではなく、小学校高学年より徐々に増加していく傾向があるとされています。**大阪市としては、そのような傾向を踏まえ、小学校と中学校の連携を必要なものと考え、小中連携した教育ならびに施設一体型も含めた小中一貫校の設置を行った結果、小中一貫校での教育効果があるということで、小中一貫校の設置を進めるという形で取組を進めています。**
- ✓ 教育委員会事務局としては、生野区西部地域の学校再編を大阪市全体のモデルとして取り組みたいと考え、3月の市会においても必要な予算を計上してきました。そのなかで、円滑な学校再編整備に向けた教職員配置の充実を1つの項目として挙げており、多数の学校での再編ということで、学校コンセプトやカリキュラム調整のため、**通常の統合の際より多い2名の教員加配が行われることについて市会での承認を得ました。**また、従来再編の前年から行っていた、再編にあたっての事前の交流や調整に向けた加配をさらに前の段階からできるようにすることや、大規模再編に見合った通常よりも人数の多い加配をめざすことについて今後財政当局との調整を予定しています。



生野中学校でめざす小中一貫校に関するご意見

【★】いただいたご意見等

- ★ 予定では次回の意見交換のテーマは「学校設置協議会の設置」となっているが、今後、学校設置協議会という次のステップの進むにあたって準備会で何か方向性が定まったというわけではない。教育内容以外の跡地活用等については、「いい学校をつくる」という方向性が定まっていれば議論が進むとともについてくる内容であると考えられるので、現在の子どもたちの小規模の教育環境についてもっと議論を深めることや、「生野中学校区」がこれからめざす方向性を定めてほしい。

いただいたご意見を反映した学校整備計画（案）の整理を進めており、最終的にご確認いただくことを予定しています。この話し合いで終わりというわけではなく、生野中学校区における小中一貫校の展望を改めてお示します。

行政

- ★ 根幹になる内容が何も決まっていけないのに、枝葉の内容ばかりを話し合う進め方であるから、議論が進まないのではないのか。再編の進め方に関する市の方針についても丁寧な説明が必要ではないか。
- ★ 地域としては、新たな学校が、現在の学校よりもどのように良くなるかという点が気になっている。他の事例からも、小中一貫校が、現状の学校よりも良いものになっているのか疑問に感じる。一気に小中一貫教育に進む以外にも、まず4小学校を1小学校に再編したうえで、他の事例の様子を見ながら小中一貫校の設置を検討するというステップアップの方法も考えられるのではないか。西生野小学校地での小中一貫校ありきではない、あくまで素案であるというなら、過去に2小学校ずつの再編が検討された様に、議論のたたき台となる案を複数出し、丁寧な説明と比較検討が必要ではないか。

例えば、2小学校ずつの再編を行った場合等の他のパターンでのメリット・デメリットを示すことは可能です。他のパターンのメリット・デメリットを考慮したうえで、教育委員会事務局としては素案の内容がベストと考え提示しています。

行政

- ★ 出てきた意見に随時対応するのみではなく、これまでの議論の積み上げをきちんとおさらいすることで、同じような議論の繰り返しを避けるようにしてほしい。

これまでの議論の経過を知らない方にも、現在の案の形に至った過程がわかるような丁寧な説明を行うとともに、これまでの議論や行政で気付かなかった内容も議論できるように対応していきます。

行政

- ★ 様々な検討を行った結果、西生野小学校地での再編が最も良いという案ではなかったのか。西生野小学校地での再編という方針で進める努力の方向性も必要であるし、地域への説明を委員に依頼するということも含めた場としての準備会という進め方をしてもよいのではないか。「子どもの教育環境の改善のため」という確固たる方針のもと、軸がぶれるようなことがないよう、ベストと考えられる行政案を進めることを考えてほしい。

行政としても、素案がベストと考えていますが、いただいた意見にレスポンスができるよう整理を進めていきたいと考えています。

行政

第6回での確認事項

- ✓ 次回の「準備会」は、6月20日（水）19時より、生野区役所にて実施する。
- ✓ 次回のテーマは「学校設置協議会の設置」
- ✓ 次回のオブザーバーは、4小学校区それぞれ3名を定員とし計12名までとする。
- ✓ 事務局は、次回の準備会で、学校跡地活用の事例を提示する。



お子さんの学校のこと、一緒に考えましょう！

保護者のみなさまのご意見お待ちしております、オブザーバー募集中！

募集中！

学校再編は、こどもたちの教育、まちづくりの未来に関わる重要な課題です。準備会では、テーマごとにご意見を述べるオブザーバーを募集しています。詳しくは下記の生野区ホームページをご覧ください。



学校再編に関する情報は生野区ホームページでもご覧いただけます。

生野区西部地域学校再編の動き

検索



発行

生野中学校区
学校設置協議会準備会 事務局
(生野区役所 地域まちづくり課)
電話：06-6715-9920